

ルカ 1・1-4, 4・14-21

今朗読された今日の福音には、ルカ福音書の二つの部分が繋ぎ合わされています。最初の部分はルカ福音書の 1 章 1 節から 4 節までの冒頭の部分です。そして、それに続けて今日の福音では、ルカ福音書 4 章 14 節から 21 節までの、ナザレの会堂で語られた、ルカ福音書の中では最初に出て来るイエスのみことばが響いていました。

この二つの箇所に通して出て来ることばは、「実現した」ということばです。初めの部分では、「わたしたちの間で実現した事柄について」と言われています。そして、後の方の部分では、安息日にナザレの会堂で預言者イザヤの巻物を朗読されたイエスの「この聖書のことばは、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と語り始められたみことばが響いています。

冒頭の部分の「わたしたちの間で実現した事柄」とはどのようなことを指して言われているのでしょうか。

ルカ福音書のこの最初の部分は、新共同訳の聖書を開いてみると、「献呈の言葉」という小見出しがつけられています。この冒頭の部分でルカ福音書の著者はどのような意図を持って、何を伝えようとしてこの福音書を書こうとしているかということ述べています。このような献呈のことばをもって始まるルカ福音書の全体を読み通してみると、「わたしたちの間で実現した事柄」とは、この福音書の中に語られている事柄全体、すなわち、神がイエス・キリストにおいて、そのイエス・キリストを信じる者たちとなったわたしたちの間で実現してくださった事柄全体を指して言われていることがわかります。

さらに、「わたしたちの間で実現した事柄」そのことは、「最初から（それを）目撃してみことばのために働いた人とびとがわたしたちに伝えたとおりに・・・」と語られています。ルカ福音書の著者がこの福音書を書く以前に、ルカ福音書が語ろうとしている「わたしたちの間に実現した事柄」を目撃した人々がいたことをルカ福音書の著者は、その読者であるテオフィロに、そしてわたしたちに断っているのです。

さらに、「わたしたちの間で実現した事柄」の最初からの目撃者であった人々は、みことばのために働いた人々でもあると言われています。その人々がどのような人々であったかは、ルカ福音書の全体を読み通すなら、イエスに呼ばれてイエスの後に従った、イエスの最初の弟子たちであることが分かります。そのイエスの弟子たちは、イエスが彼らに約束しておられたように、イエ

スの復活と昇天の後に聖霊降臨の恵みを受けて、十字架につけられて死んだイエスの復活をいのちをかけて力強く宣伝して行く者たち、復活のイエスによって遣わされた者たちとして、みことばの使徒となった人々のことであることが分かります。

ルカ福音書の著者は、イエスの最初の弟子としてイエスによって選ばれ、聖霊によって使徒として遣わされた人々が伝えたとおりの「わたしたちの間で実現した事柄」をあらためてこの福音書の中に書き残し、それをテオフィロという人物に献呈しようとしているのです。テオフィロというこの人物についてはこの後、聖書のどこにもその名前が出てきません。従って、テオフィロが自分に献呈されたこの福音書をどのような心をもって受け止め、それにどのような反応を示したかも、聖書の中では確かめることが出来ません。

テオフィロというこの人物についてわたしたちに分かることは、テオフィロというその名前だけです。テオはテオスすなわち神ということばを思わせませす。フィロは「愛する」あるいは「愛された」という意味のことばを類推させませす。そこから、テオフィロというこの人物の名前は、「神を愛する者」、あるいは、「神に愛された者」という意味を持った名前である言うことが出来ます。そのことから、テオフィロという名のこの人物は特定の個人というよりも、神を愛する、あるいは、神の愛を受け止めているすべての者たちをシンボリックに代表している人物というふうに考えることが出来ます。ルカ福音書の著者はそのような読者を念頭においてこの福音書を書いているというふうにも読むことが出来ます。つまり、神がわたしたちの間で、イエス・キリストにおいて実現して下さったことを語ろうとするこの福音書に興味をもってそれを読もうとしているわたしたち全ての者のためにこの福音書は書かれていると、著者はこの福音書の冒頭においてわたしたちに語りかけているのです。

ルカ福音書は今から二千年も前に書かれた書物です。けれども、ルカ福音書の著者が立っている位置は、わたしたちの間で実現した事柄、すなわち、神がイエス・キリストによってわたしたちの間で実現して下さった事柄と、それを最初に目撃してみことばのために働く者となった使徒たちの時を起点とするなら、その使徒たちが伝えたイエス・キリストの福音を受け入れている今のわたしたちと同じ地点に立っていることがわかるのではないかと思います。つまり、ルカ福音書の著者は、わたしたちと同じ教会の信仰の中で、わたしたちに向かってこの福音書を献呈してしてくれるのです。何のためにそうしているかと言えば、テオフィロのためにそうしたように、わたしたちが受け入れている信仰の教えが確実なものであることを、わたしたちによく分かって、理解してもらうためなのです。ルカ福音書のわたしたちへのこのような熱い思いに応え

るためにも、この福音書の中に語られていること、すなわち、イエス・キリストにおいて、神がわたしたちの間で神が実現してくださっていることを、深く味わうことが出来たらと思います。

今日の福音の後半においては、先ほども述べたように、ルカ福音書の中に見出すことが出来るイエスご自身の最初のみことばが響いています。

「この聖書のことばは、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」。これが、ルカ福音書の中に響いているイエスの最初のみことばです。イエスのこのみことばが指し示しているのは、「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために。主がわたしに油を注がれたからである」という旧約聖書のイザヤ書のことばです。これは、預言者の口を通して語られているメシアのことばです。メシアとは主である神によって油注がれ、そのことによって、主である神の霊とともにある人のことです。そのメシアは貧しい人に福音を告げる使命を帯びていると言われていています。貧しい人とは、神によってその貧しさが認められた人のことです。この世の生活の中で、神に拠りすがらしか生きて行く希望がない人たちのことです。その人々のためにメシアとされたこの人は主である神から遣わされて、その人々に、囚われからの解放、視力の回復、圧迫からの自由をもたらし、主である神からの恵みの年の開始を告げ知らせる」と語られています。そのようなメシアが来ると預言者は告げていたのです。ルカ福音書が語るイエス・キリストは、その最初のみことばをもって、「この聖書のことばは、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と宣言しておられます。つまり、ルカ福音書の中で最初に響くこのみことばによって、イエスはそのみことばに耳を傾けている人々に向かって、御自分が旧約の預言者が告げていたメシアその人であることを宣言しておられるのです。あのとき、ナザレの会堂に集った人々に向かって語られたイエスのこのみことばは、その同じみことばを、ルカ福音書の朗読を通して聴いたこのミサに参加しているわたしたちに向けても同じことを宣言されているのです。何故なら、ルカ福音書がその全体を通して語っているイエス・キリストというお方は、死者の中から復活されて世の終わりに至るまでイエス・キリストを信じる者たちとともにいてくださるお方だからです。

わたしたちのこのミサにおいて、今日もそのみことばを聴かせてくださるイエスは、この世の生を生きているわたしたちのあらゆる囚われからわたしたちを解放してくださるのです。この世の生活への囚われによって、神の恵みの光に盲目になっているわたしたちの目を開いてくださっているのです。この世の生活の圧迫に押しつぶされそうなわたしたちをその圧迫から自由にしてくださろうとしておられるのです。こうしてイエスのみもとに集って、こころを静め、

イエスのみことばに耳を傾けようするとき、神から遣わされたわたしたちのメシアであるイエスは、神からの恵み年の開始を宣言して下さり、神からの恵みを新たにわたしたちのためにもたらして下さるのです。このミサがそのような恵みの年の開始の時となるよう、今日聴いたルカ福音書が告げていることを深く味わいたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高